

国立大学法人香川大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和4年3月10日
国立大学法人香川大学
学長選考会議

国立大学法人香川大学学長選考会議は、国立大学法人香川大学学長選考会議規則第4条第4号に規定する学長の業務執行状況の確認について、下記のとおり確認を行った。

記

1. 対象期間

令和2年10月1日から令和3年9月30日

2. 確認経過

- (1) 学長選考会議（令和3年11月22日開催）
確認資料に基づく書面審査を行い、各委員からの意見を聴取した。
- (2) 学長選考会議（令和4年1月18日開催）
各委員からの意見に基づく協議及び学長からのヒアリングを行い、加えて監事からの意見を聴取した。
- (3) 学長選考会議（令和4年3月10日開催）
以下のとおり確認結果を策定した。

3. 確認結果

学長選考会議は、「寛 善行」学長の業務執行状況は適正であり、且つ、積極的に業務を推進していることを確認した。

寛学長は、創発科学研究科（修士課程）の設置に向け、強力なリーダーシップを発揮し、令和3年8月には文部科学省から設置認可を得る等、学長選考時の所信に掲げた大学院改革を着実に達成している。

また、長期にわたるコロナ禍の影響を変革の好機と捉え、4つの分散キャンパスからなる香川大学の基本方針として「デジタル ONE 戦略」^{※1}を策定し、学内のDX化を強力に推進している。中でも「DX ラボ」における教職学協働による学内業務システムの内製開発は、特筆すべきものであると評価できる。

学長選考会議では、寛学長からのヒアリングにより、これらの具体的内容に加え、今後の大学経営について確認を行ったところ、特にSDGs及びダイバーシティへの取組みについては、全学的な推進体制の整備等、時宜を得た積極的な意欲と取組みを確認することが出来た。

なお、寛学長が就任以来、他大学と比べ抜きん出たための方策の一つとして、特に注力してきた「DRI教育」^{※2}については、学生が獲得したDRI能力の可視化、同教育の全学的な波及等の施策に加え、学内外への浸透についてのより積極的な施策を打ち出していきたい。

今後の業務執行においては、引き続き、適正かつ積極的な業務執行を行うと共に、創発科学研究科（博士課程）の令和6年度設置に向けて、特に積極的なリーダーシップの発揮を期待する。

※1 4つの分散キャンパスからなる香川大学において、「教育：デジタル ONE キャンパス」、「研究：デジタル ONE ラボ」、「運営：デジタル ONE オフィス」を基本方針として進めること

※2 イノベーションを創出する「デザイン思考 (D)」、レジリエンスやセキュリティに資する「リスクマネジメント (R)」、専門分野を超えた数理情報基礎力「インフォマティクス (I)」の3つを統合した能力を育成すること